

これまでの取組の成果



地元農家による営農指導



季節ごとに野菜の植え付け



自分たちで植えた野菜を収穫



ふれあいイベント「かかしコンテスト」

- ・ 自然とのふれあいを通じて多様な体験活動の場を提供。
- ・ 地元農家と都市住民との新たなつながりが生まれ、地域の賑わいをもたらすことにつながっている。

一定の成果を上げてきたが・・・

地区の農業を次世代に継承していくためには
営農環境の整備や後継者の確保などを
今のうちに考えるべきとの役員からの声

平成28年に再度協議会における話し合い をスタート

○まずは家族を含めてアンケートを実施

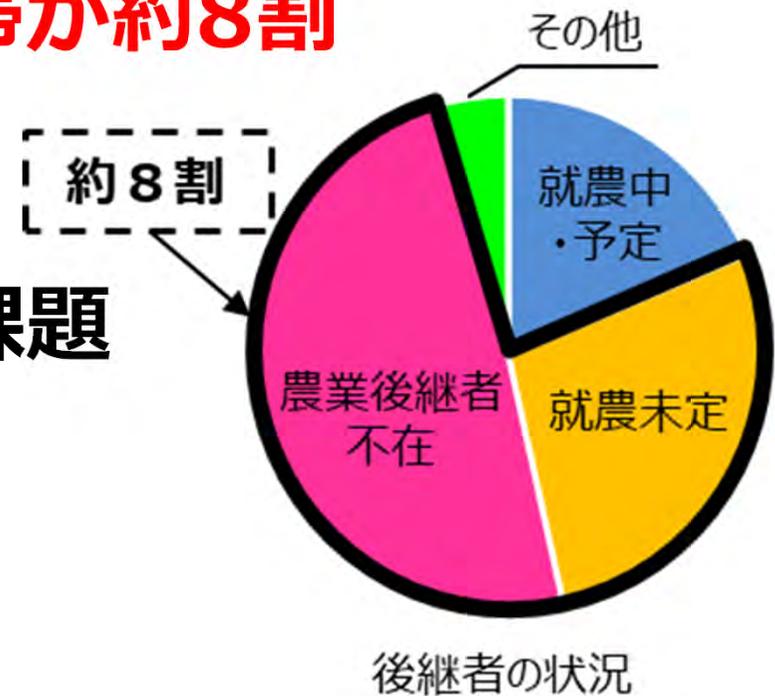
- ・ 現在の経営形態
- ・ 機械保有状況
- ・ 農地の利用状況、貸付意向
- ・ 後継者の有無
- ・ 地域活性化に必要な取組
など

アンケートの結果

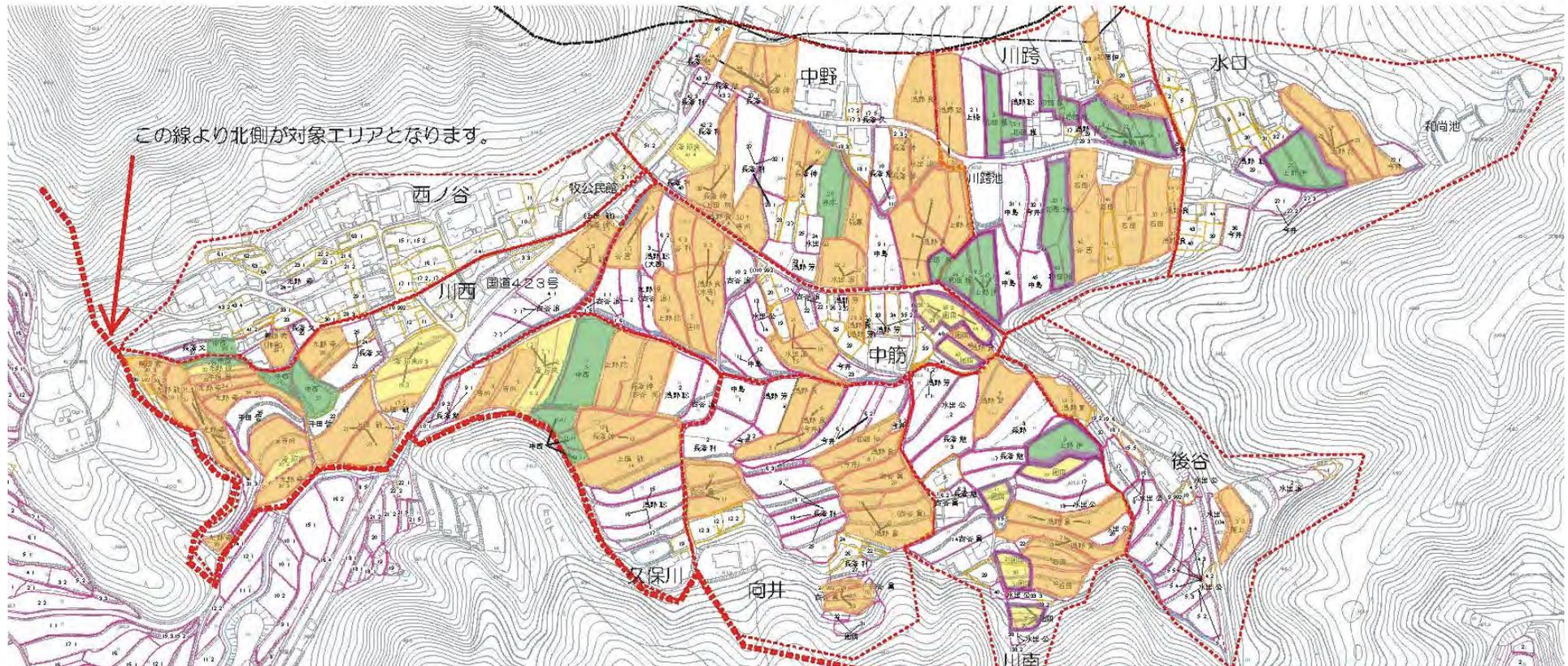
○これまでの取組を評価、継続を望む

○一方で、これまでの取組だけではクリアできない実態が明らかに

- ・ **後継者不在、未定の世帯が約8割**
- ・ 未整備の農地、水不足、鳥獣害、機械購入経費などが営農上の大きな課題



アンケート結果を見える化（危機感を共有）



遊休化の恐れがある農地 6割超
このままでは地域農業の継続が危ぶまれる

凡 例	
	後継者就農未定
	後継者不在、未定で営農しない
	規模縮小

新たな計画づくりに着手（検討会の開催）

- 地区農業を中心的に担う50～60歳代のメンバーにより、検討会を開催（約半年間で15回）
- 大阪府職員はコーディネーター役として参画、町職員も参加



新たな将来構想を作成

今後の方向性と方策案を
「牧地区農業・農空間ビジョン」
として取りまとめ
(平成30年1月)

「牧地区農業・農空間ビジョン」 (農空間づくりプラン) で定めた今後の方向性

集落営農組織による農業経営
と担い手の確保



牧のさとやま合同会社
(令和元年10月設立)
60歳代を中心に10名で構成

地区の活性化に向けた
取り組みの推進



都市住民との交流活動
をさらに発展
(体験農園・観光農園の開設)

「牧地区農業・農空間ビジョン」 (農空間づくりプラン) で定めた今後の方向性

効率的な営農環境の整備



ほ場整備事業の導入

法人による地域課題の解決



ひとり暮らしの高齢者向け
福祉事業